

《教育講座 I》

1. PET/CT診断に役立つ頭頸部の画像解剖

原 澤 有 美

(武蔵村山病院 放射線科)

^{18}F -FDGによる腫瘍PET, PET/CT検査において頭頸部は注目すべき領域のひとつといえる。頭頸部癌の原発巣の検索に用いる場合は保険診療の適応であるため検査の需要が高いことに加え、正常例において生理的なFDG集積が高頻度に見られるので画像解剖に習熟することは必須と考えられる。

ここではCTにおける基本的な画像解剖を概観して正常例でFDG集積が生じる部位の解剖学的な確認をおこなう。また悪性腫瘍の画像診断に必要なポイントと所見を提示するとともに頭頸部癌の画像診断のポイントとなる頸部リンパ節の分布について概説する。

2. 胸部画像診断に必要な臨床・画像解剖

立 石 宇 貴 秀

(国立がんセンター中央病院 放射線診断部)

^{18}F -FDG-PET/CTに代表される断層融合画像を用いた画像診断が盛んになり、日常診療において詳細な解剖学的知識を必要とされる場面に遭遇する。胸部画像診断では、病変の局在や進展範囲の評価、進展様式の理解、治療法の選択、進展範囲と術式選択、病変と解剖学的指標との位置関係の評価など、いずれにおいても解剖学的知識が必要不可欠である。中でも、縦隔リンパ節は画像診断のみならず、治療方針に関しても常に議論の対象となる。現状における診断基準はいずれも確定的ではなく、個々のリンパ節の形態学的所見、異常集積の程度、

原発部位との相対的關係、そして治療前後などの患者の状況を総合的に判断し、その臨床的意義を考慮しながら画像評価を行う必要がある。

神経や血管といった細かい構造も正常では確認が容易ではない場合があるが、病変の進展様式の理解には非常に重要な構造も含まれ、胸部画像診断で臨床重要と判断される正常変異を含む代表的な解剖学的知識も必要とされる。胸部領域の解剖の理解とその重要性を解説し、PET/CTなどの断層融合画像の診断の一助となり、胸部領域の臨床に寄与することを望む。